



# 虹ヶ丘

[https://kawasaki-edu.jp/2/511\\_nizigaoka/](https://kawasaki-edu.jp/2/511_nizigaoka/)

虹ヶ丘小学校  
ホームページ ⇨



## 心豊かに 学びを積み上げ、充実した11月に

校長 井上 恵子

曇り空のなか、第49回運動会を無事に開催することができました。今年は赤組が優勝、白組が準優勝でした。全校児童は、自分の、自分たちの種目に全力で、高学年は係の仕事にも真剣でした。「自分たちがやらなければ誰がやるんだ」という心意気を感じました。低学年の子は、そんな高学年を見ていて憧れをもつのでしょうか。応援団長さんは、「人気者になったよ。一緒に遊ぼうとたくさん声をかけられる」と照れていました。今年度、新しく取り入れたことが3つあります。運動会の歌、校歌合唱、川崎市制100周年を祝うことです。開会式の運動会の歌「ゴーゴーゴー」は、「フレーフレー赤組（白組） ゴーゴーゴー」で始まります。1番が赤、2番が白、3番は赤白同時に歌い、負けまいと張り上げた声が校舎に跳ね返っていました。

閉会式では、6年生が校歌のハモリパートを歌いました。一部が合唱になっていたのをお気づきでしたでしょうか。運動会の歌とは異なり、しっとりときれいな歌声です。前期終業式から校歌の部分合唱を取り入れています。6年生はハモリパートを喜んで練習しているようです。そして、川崎市制100周年を祝う競技と表現を1・2年生が取り入れました。

虹ヶ丘小の伝統でもある「ソーラン節」は、卒業生から憧れのはっぴを引き継いだ6年生と6年生から踊りを教えてもらった5年生が踊りました。裸足の足が力強く、オレンジのはっぴを翻らせながら踊る姿は素敵でした。ソーラン節・うらじゃ・エイサーの練習では、自分のめあてをもち、練習後にふりかえり、「なりたい姿」に近づくように練習を繰り返していました。その過程ではうまくいかないこともあったかもしれませんが、粘り強く取り組んでいました。本番は、自分らしく表現することができていたと思います。子どもたちの笑顔は宝物ですね。一人一人が主役の、自分らしさ満開の運動会になったことを嬉しく思います。

10月26日から11月24日は「秋の読書推進月間」です。読売新聞社が全国世論調査を実施し、新聞で調査の結果を公表していました。

「本を読むことの良いところは何かと思いますか」という質問に対しての答えで1番多かったものは、「新しい知識や情報を得られる」でした。続いて「感性が豊かになる」「豊かな言葉や表現が学べる」「想像力が養える」「人生のヒントがつかめる」です。

「本をたくさん読んだ方がよい時期は、いつだと思いますか」の質問では、小・中学生時代が一番多いという結果でした。この調査結果からは、子どもたちにたくさんの本を読ませた方がよいことがわかります。実際に子どもたちと生活していても、同じことを感じます。ただ、「本を読みなさい」と言っても読むようにならないのです。国語の学習で、本の読み方を学んだり、互いに読んだ本を推薦する活動を行ったりすることで、本を手にとる子を増やしたいと思っています。図書委員会の子どもたちも、校内に本の紹介の掲示物をつくり、イベントを計画しています。先日のメール配信で「図書ボランティア募集のご案内」をしました。学校教育ボランティアコーディネーターの大谷さんと学校司書の上山さんが、子どもたちが本との出会いや読書時間を楽しく過ごせるようしおり作りを計画してくださいました。そして、すてきな七色のしおりが出来上がりました。一人一人に配りますので、ご家庭でも話題にしてみてください。



このように、学校ではさまざまな取り組みを行っています。小説家の松永K三蔵さんの言葉に共感したので紹介します。「本の優れているところは、『他者性』との出会いだと思う。理解できてもできなくても、こんな考え方や視点があったのかと、自分の想定の外を超えるものに出会うと感動する。優れた本は、自分自身を超えるきっかけを与えてくれるんです」。

読書推進月間に、ご家庭でも、本を読む良さを感じられような時間を過ごしていただけたらありがたいです。